

ウスモンナギサスズの産卵場所について

林 正人¹⁾

はじめに

ウスモンナギサスズ *Caconemobius takarai* は波打ち際の岩礁やテトラポット®に生息し、エビやカニの死骸など漂着物を主食とする特殊な生活史を有する。しかし、厳密な産卵場所についてはこれまで不明であった。この度、飼育下ではあるが産卵が確認できたため、ここに報告する。

事前考察

ハワイ諸島の海蝕洞に生息するナギサスズの仲間は、岩礁ばかりで漂流物がほぼない環境にも関わらず多数が生息している。しかし、岩礁は非常に硬いため、とても産卵管を差し込めるものではない。

コオロギは一般的に土壌や砂場に産卵するが、ウスモンナギサスズが生息する場所にはこれらは存在しない。例えば土壌や砂場があったとしても、波にさらわれてしまうため、産卵床には適さないと考えられる。また、流木などの漂着物においても、波にさらわれてしまう可能性があるため産卵材には適さないと考えられる。

以上のことから、野外での産卵場所に関して見当もつかなかったため、これまで筆者が直翅類の飼育をしてきた経験から思いつく限りの産卵床を用意して飼育実験を行った。

飼育実験に使用した産卵床と結果

実験に使用した産卵床は川砂、砂利、赤玉土、園芸用吸水性フォーム(オアシス)、流木、マサキの幹、ススキの茎、コンクリート片、牡蠣の貝殻、テラリウム用造形材(極床超造形君®)の10種である。

これらの産卵床を交尾済のメス5匹に与えて5週間ほど飼育したところ、極床超造形君®やオアシスと極床超造形君®を組み合わせた産卵セットの場合に限り、産卵行動が見られた。

極床超造形君®とはテラリウムの壁面や植物の培養土に使用する造形可能な床材で、スギやヒノキの樹皮を粉碎加工したマットにベントナイトなどの粘土鉱物を含ませているため、濡らして乾かす事で硬く固まる性質がある。

卵は極床超造形君®の表面近く、僅か1.5mm程度の深さに産卵し、オアシスを組み合わせた産卵セットでは、それらの隙間の7mm程度のやや深い場所に卵を確認することができた。(図1, 2, 3, 4参照)

事後考察

今回の実験で硬いマットの表面近くや隙間に産卵する事が明らかになった。この事から野外の環境では岩礁やテトラポット®にこびり付いて硬くなった泥や、それらの隙間を利用して産卵しているのではないかと考えられる。

そして、柔らかい土や材に産まなかった理由として、産卵しても卵ごと波にさらわれてしまう可能性があるため避けているのではないかと考えられる。

今後は孵化するまでの卵の管理方法及び野外での産卵行為の観察記録を研究課題としたい。

謝辞

有限会社ピクタの陶武利氏には有益な御助言を頂き、日本鳴く虫保存会の八本清氏には飼育実験にご協力頂いた。以上の方々から感謝の意を表す。

¹⁾ Masato HAYASHI 千葉県千葉市



図1 産卵行動が見られた産卵セット.



図2 隙間に産み付けられた卵.



図3 隙間に産み付けられた卵.



図4 表面近くに産み付けられた卵.